





何がいけなかったのか、どうして二週間で全部死んでしまったのか、お父さんと二人で本を読みながら調べた。その日は金曜日だったこともあるが、気がついたときには午前一時を過ぎていた。こんな遅い時間まで、お父さんと一緒にカブトムシの研究をしたことで、少し大人になったような気分だった。去年失敗した原因の一つは、えさだった。スイカの残りをやったが、水分が多いのでカブトムシがおなかをこわすということだ。もう一つは、暑いところに置いたのもよくなかった。カブトムシは夏の虫だから、暑い方がいいと思っただが、間違いだった。さらに、一つのケースで、カブトムシをたくさん飼ったのもいけなかった。一つのケースにオス一匹、メス一匹で育てるのがよいということだ。今年には失敗しないように、専用のえさと、カブトムシとクワガタそれぞれの飼育ケース、ケースの床に敷く発酵マットを近所のペットショップで買った。そして、本に書いてある

ように飼育ケースの中を整え、涼しいところに置いた。あとは本を読みながら育てれば、去年のような失敗はしないだろう。  
 さて、夏も終わりになったが、カブトムシもクワガタも元気で生きている。カブトムシは一年で死んでしまいう昆虫だが、夏の間、精いっぱい生きてくれた。あと何日生きていられるか分からないが、それは生き物が持つ寿命だ。仕方がない。しかし、ぼくにはカブトムシの命をつなぐこと、カブトムシが産んだ卵をふ化させ、来年、成虫となる子どもたちの世話をしてあげる義務がある。  
 クワガタは越冬できる種類なので、来年も元気な姿を見せてくれるように、秋になってもしっかりと管理をしなければならぬ。  
 カブトムシのふ化も、クワガタの越冬も今年がはじめてだ。うまくいくかは分からない。だが、生き物を飼ったら、最後まできちんとして育てるのが飼い主のつとめだ。カブトムシとクワガタの飼育は夏が終わってからも続く。